



中学校 第3学年

発見！日本の美 ～日本美術のよさや特徴について語り合おう～

教科としての特性

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

本教科で育成を目指す資質・能力

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

本教科で働かせる見方・考え方

造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していく。 【中学校学習指導要領解説(美術)編 P1】

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <p>生徒の学習進度や理解度に応じて柔軟に対応する。例えば、美術鑑賞では、個別のワークシートや補足資料を使って、生徒それぞれの理解を深めるとともに、鑑賞の楽しさを広げることができるよう支援する。</p>	<p>学習の個性化</p> <p>生徒の興味や強みを活かして学ぶことを支援する。例えば、特に興味を持った作品やテーマを深掘りし、自分なりの視点で評価や感想をまとめることを促す。これにより、生徒の主体的な学びと成長が促進される。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>グループディスカッションや発表を通じて生徒同士が意見を共有し合う場を作る。例えば、「松林図屏風」と「ミッデルハルニスの並木道」の比較鑑賞をし、感想を発表することで、より深い理解が得られる。</p>
--	--	--

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用















- ・日本美術の電子教材やデジタルワークシート、美術館のデジタルアーカイブを活用して、生徒が自分のペースで質の高い学びを実現する。
- ・タブレットを使って意見交換を行い、議論や発表を通じて多様な視点を共有する。
- ・生徒の学習成果をデジタルで保存・共有しフィードバックを行う。

視点4 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にした授業デザインを構想するにあたってのポイント（単元）

単元を通して個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが大切です。生徒は自分たちの学習進度で美術作品を鑑賞し、作品のよさや美しさや美術文化について造形的な見方・考え方を深める学習活動の展開を工夫します。生徒の実態に合わせて多様な学習の場を設定し、ICTを活用したりする等、美意識を高め、見方や感じ方を深める指導の工夫が大切です。

単元名：発見！日本の美 ～日本美術のよさや特徴について語り合おう～

流れ	単元の流れ（全2時間）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
1次	<p>1. 鑑賞（1時間）</p> <p>●日本と西洋の美術作品を比較鑑賞し、造形的な視点に着目し、作品の見方や感じ方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「松林図屏風」と「ミッデル ハルニスの並木道」を比較鑑賞し、余白や空間の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 ・作品の表現の特質から感じ取ったことや考えたことなどをワークシートに記述する。 ・両作品の表現のよさや工夫についてグループで話し合い、クラス全体に発表する。 	<p>本時目標</p>  <p>造形的な視点</p> 	<p>思考判断</p>  <p>ワークシート</p>  <p>新たなもの</p> 	<p>比較鑑賞</p>  <p>グループ</p>  <p>全体共有</p> 	<p>電子黒板 デジタル教科書</p> <p>スライド機能 入力機能</p> <p>コメント機能</p> <p>共同編集機能</p> 
2次	<p>2. 鑑賞（1時間）</p> <p>●日本の複数の美術作品を比較鑑賞し、美術文化について考え、見方や感じ方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「松林図屏風」、「燕子花図屏風」、「名所江戸百景 亀戸梅屋敷」、「洛中洛外図屏風」を比較鑑賞し、造形的な視点を働かせながら、表現の相違点や共通点等に気付いたことをワークシートに記入し、グループで話し合い、クラス全体に発表する。 ・日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、作品のよさや美しさ、美術文化などについてワークシートにまとめる。 	<p>本時目標</p>  <p>ワークシート</p> 	<p>ワークシート</p>  <p>ワークシート</p> 	<p>比較鑑賞</p>  <p>全体共有</p>  <p>思考表見</p> 	<p>電子黒板 デジタル教科書</p>  <p>プレゼン</p> 
授業外	<p><授業外：題材が終了後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを通じて生徒の学習進度や理解度を把握し、個別のフィードバックを提供して理解を深める。また、生徒が自分のペースで学び、日本美術作品の特徴や美しさを掘り下げて学ぶ。さらに、生徒同士が意見交換を行い、深い理解と新たな発見を得る。 				

※ピクトグラムのは活用は、生徒や学校の実態に応じて取捨選択する